

「日々の理科」(第 4435 号) 2026, 10, -1

「秋の北極圏旅行記 (17)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka



私は旅行先で自分の写真をほとんど撮りませんが、ノルウェーの端っこの街に、次回はいつ来られるかわからないので一枚。いかにも日本の還暦過ぎのオヤジ。



ナルビクのホームにはあんなに人がいましたが、我々が乗った 20 号車はガラガラでした。20 号車といっても、実際は食堂車を入れても 5 両編成です。



ナルビクでは時間がなかったなので、友人に頼んで、

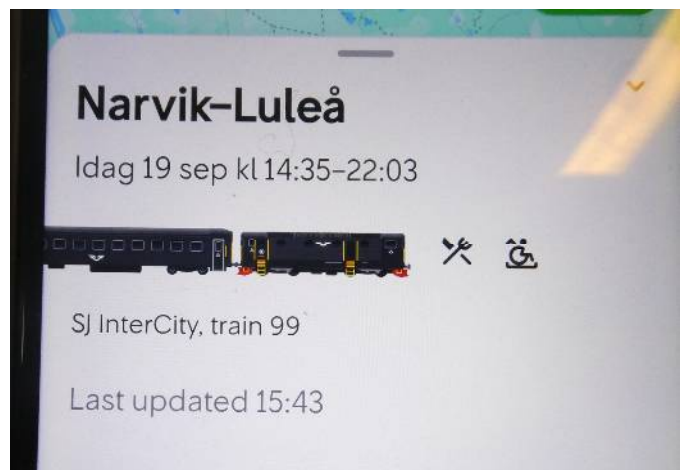
駅チカの小さなスーパーで、でっかいサンドイッチを買ってきてもらいました。私は万が一列車が発車しそうになったら止められるように、駅に残りました。



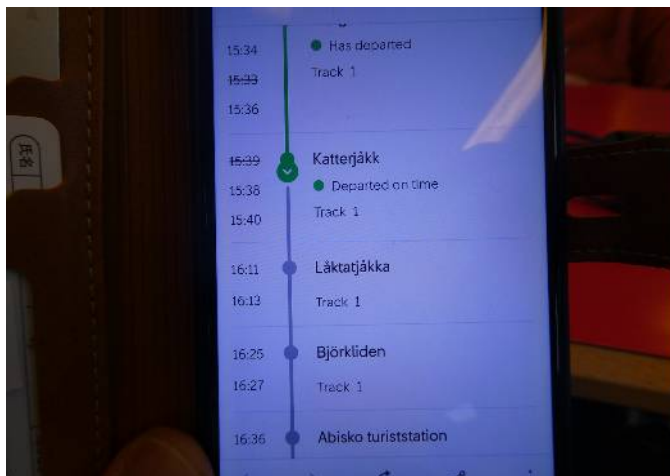
帰りは太陽の向きが変わり、またちがった風景に見えました。



それにしてもすごい場所に線路が敷かれています。この鉄道の歴史を調べると、相当な難工事であったそうです。もともと旅客列車の乗客が風景を楽しむためにここに線路が敷かれたのではないのですが、鉄道の車窓風景としては世界屈指でしょう。別名「フィヨルド急行」とも呼ばれていますが、名に恥じぬ絶景です。



帰りに乗った「インターシティ 99 列車」は、スウェーデンの中都市ルーレオ行です。ルーレオの手前のボーデン駅で、ストックホルム行きの寝台急行に接続しています。従って、1 分も遅れずに運行したい列車なのだと思います。



運行状況は、SJ（スウェーデン国鉄）のアプリでリアルタイムに確認できます。実際に帰りの99列車は、数分の誤差で時刻表通りに運行していました。中には予定よりも早く到着した駅もあって驚きました。



遠くの岩山に雪が残っています。これは実は氷河で、20年前に見た時は、山の中腹まで覆われていました。いずれ消える運命でしょう。



再び国境を越えて、スウェーデン側最初の駅「リクスグレンセン」に着きました。冬は雪深く、また背後の岩山からの落石を防止する為、ホームは頑丈な屋根で覆われています。この鉄道は、貨物列車・旅客列車とも、真冬でも運行しています。



予約したオンライン切符には、乗車号車と座席番号が書かれていますが、駅のホームに乗車位置を示す表示はありません。しかしよく案内板を見ると、何号車が先頭なのかわかるので、実は迷うことはありません。



最後の停車駅キルナを過ぎると、太陽が沈みました。空は見事に快晴。今夜こそ、オーロラの出現が期待できそうです！



写真も旅行記録には大切ですが、私の場合水彩も重要です。流れる車窓風景をそのまま描くのは難しいです。私の場合「風景から何を感じたのか」を画にしています。そして一度自分で描いた風景は二度と忘れることはありません。